

第 1 回「日本語大賞」

テーマ 「人と人とをつなぐ日本語」

小学生の部 優秀賞 受賞作品

「命をつなぐ『ありがとう』」

石川県

金沢市立杜の里小学校 5 年

山崎 萌音

命をつなぐ「ありがとう」

金沢市立杜の里小学校 五年

山崎 萌音

「ごちそうさま」

わたしは、料理が好きでよく、家族にも作って、食べてもらいます。そんなわたしは、この「ごちそうさま」という日本語が大好きです。弟や妹、お母さん、お父さん、食べ終わったときに、みんなが、わたしに言ってくれる「ごちそうさま」を聞くと、心の奥が温かくなって、作ってよかったなと思います。だからわたしも、食事のあとには必ず「ごちそうさま」を言います。そのときもまた、心の奥がほんわか、温かくなるのを感じます。夏休み、おばあちゃんの家に行きました。おばあちゃんが、とってもおいしいご飯を作ってくれました。いつものようにわたしが、

「ごちそうさま」

と言うと、おばあちゃんは、

「おそまつさまです」

と言いました。最初はこの言葉の意味がわかりませんでした。でも、おばあちゃんがうれしそうにこの言葉を言っている様子を見て、わたしもなんだか、とてもうれしい気持ちになりました。

次の日に、「おそまつさま」の意味をおばあちゃんに聞いてみると、

「こちらこそ、食べてくれてありがとうっていう意味だよ」

と答えてくれました。わたしは、「おそまつさま」という言葉が大好きになりました。

そういえば、宿泊体験の食事で、先生が

「『いただきます』『ごちそうさま』には、『命をいただきます』『ありがとうございます』という感謝の気持ちが込められているんだよ」

と言っていたのを思い出しました。

お肉やたまご、野菜や魚、どれも命をいただいています。命をいただいて、自分が生きさせてもらっていることへの感謝、おいしい食事を作ってくれた人への感謝、そんな二つの「ありがとう」の気持ちがこもった「ごちそうさま」。そして、「食べてくれてありがとう」の気持ちをこめた「おそまつさま」。まるで「ありがとう」の気持ちが、リレーをしているようです。

日本語にはこんなすてきな、「ありがとう」を伝える言葉がたくさんあります。命をつなぐ「ありがとう」。これからも、心をこめて伝えていきたいです。